

学生会通

新 73年7月23日
第2号 | 独立学
行者手に

全ての報告書が公判審議の流れを踏んで
アリバウトを初め、9月11日と、11月11日
値上げ闘争の公判延が、夏休み中に連続的に行われんとしている。

才1回公判(5/10)は、才判長小野の一方的な決定権を、「被告」への「不出頭一保証取り消し」のドウカツヒ、あいつぐ「退廷命令」をもって強制し、「被訴」の所信表明を「空氣混濁一即時開廷」と、審査入一審判的排除をもって踏みにじっている。続く才2回公判(7/10)でも、我々の、才1回公判に在る才判長小野の権力的前証指揮への執拗から、小野は眉立つを避け、飛田誠哉人の要例は、豊田正義才裁判(5/25)や、中島「被告」への影響をもっての実行を正当化している。

スピーディー審理-審議打ち切り-早朝審
一早期公判。審査官判から次第次第と、今日の司法のアッショ的反動化を通じて、
学園四季を最後まで三々に書き、指している
曾文名人の確証を許さぬ國いを「被訴」
一「候處人」の想いられた脚本を起し、書き出そう!

夏休み中の才3回4回の公判斗争を以て
括く結を、アリバウト公判斗争人のクラス・
サーカスの終り洗濯で形成せよと

10公判斗争の前途、即ち、学生会館を
立ち取れ。

昨年11、12冬季は、

①、11、12公示と大家団との説明会への
入り口えりかえ
②、前日18日、安忍しかも学生に秘密裡に
発表された学園値上げ案)

その年の教員を空きつけ、当時のアリバウト
値上げの考え方がある時は、学生との文
案団交に於いて、それを決定する。この構
成の策動を解説すべく三々に書かれだ。

高井戸署、中野署等と面前に重荷をもち
、しかも、マエヨミを利用し、「暴力事件」
として片付けるべく朝日新聞の記者を会場に
入れ準備されたアリバウトを通じて切
った尊貴四季の圧迫が、今「行為をギキ、
人をギカズ」というブルジョア理想の下、
斗争の社会性と表現形態である行為を介繋
する事を画し、多く重として、最終的結果
に空入している。

10周年を通じて学生会館の封鎖、新年度
突入ごとの困難を経、として示されている、
直上げ強行の過程で接觸的に強化された學
園管理支配体制は、斗争に対する暴力の
仕得という事を越えて、値上げを財政的基
礎とした教育設備の近代化-合理化の一環
である事に注目せねばならない。

試験-単位認定の前に一等に折衝される
学生の「自由なる外觀」が、初期から初
等・中等・高等を重くドラスティックな數
値改編(多様化と早期能力発現)の中で、
増々、何物かが明らかにされ、その「外觀」
をいくらかでも残る為、中大当局から「反
対力-学館南向」が窺い出されている。又、
逆に、単純肉体体力一下筋技術体力が
「解放」された学生が、現下の分業社会に
更に、た教育改編の中で、増々「魅力ある
校風をよ」「くスルジョア」社会に役立つ、
授業をよ」の叫びを上げ、その精神体力者
としての強化を画した資本の特徴指揮の
力を借りた、他者の支配-肉体体力者への
支配に社会的拡がりを、ネジ曲げられた、魅
力を感じる事に、当局から学生会館のゼニ
化が計画されている。そして、それは、今
日本、筑波法制定の中で、一層に国立大学
から打ち組められんとしている。

学生会館の実力による解説の三いは、学生
の「自由なる外觀」のその「外觀」的
一到による斗争を越えて、すなわち、精神体力
の肉体体力への支配が、普段の「競争と
分断」の教育過程を通じ、再生产される事
をカッコに入れた運動や、裏がえしとして
の日女-民衆のブルジョア出世主義的運動
の手段としての「尊館南向」という事を越
えて、地域や職場で日々、便い捨て筋力
として、資本の專制支配の下で構りつけ
られた肉体体力者や、「部差民は部差民
らしく」。障害者は「障害者」らしく。
と言う差別-階級教育の下、差別の再生産
を画した資本のむき出しの榨取に苛まれて
いる被差別大衆と交流し連帯していく事の
中から、教育の帝国主義的政策の補完物や
その裏に隠れ、あるいは、被差別大衆へ
の「よき自儀表」として落し込むられる事
を突破し、学生の社会的隸屬を解き社つ、
条件が形成されるのだよ。

尊館解放-自主管理の統一的な三いは、
その事を通じ始めて「自らの運命を自らが
握る」斗争の一環として飛躍できる。

10公判斗争勝利!
尊館改修斗争に支度せよ。
教育近代化-合理化強化新規?
筑波法制定実化阻止?

177
11
19
第3回
公判斗争

明大中
野高校
貢値上
説明集会
に
力
で
大
起
セ
よ。
12月10日公判

当面の行動方針
アリバウト
田中就迷阻止場地
明日三令
9月1日
尊貴四季斗争
11日
11月10公判斗争
下回
尊貴四季斗争発起
者